

木曽谷支援の取組について

中部森林管理局 木曽森林ふれあい推進センター 大石 政弘

要旨

平成 26 年の御嶽山噴火から 4 年が経過しても、観光客数の落ち込みが回復せず深刻な影響を受けている木曽谷の観光産業を支援するため、長野県が提唱する支援運動の一環として、交流イベントや支援ツアー、パズルラリーなどの観光客誘致の取組を実施し、参加者や協賛団体から好評を博するなど一定の成果が上がりました。

はじめに

平成 26 年 9 月 27 日 11 時 52 分、顕著な前触れもなく御嶽山が突然噴火しました。発生したのが紅葉シーズンの晴天に恵まれた土曜日の昼時で、山頂付近に多くの登山者が集まっていたことなどの要因により、50 人を超える方々が犠牲となりました。被災された方々に対しお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈りいたします。



写真-1 噴火口の様子



写真-2 火山灰に覆われたササ

1 木曽地域の観光客の現状

さて、今年で御嶽山噴火発生から 4 年を数えますが、木曽地域はこの噴火により観光客が激減し、平成 28 年度の観光地利用者数は、対前年 0.7% 増といくらか回復の兆しをみせていましたが、29 年 6 月 25 日に発生した震度 5 強の地震により山麓の集落が被災し、噴火前の水準には戻っていません。

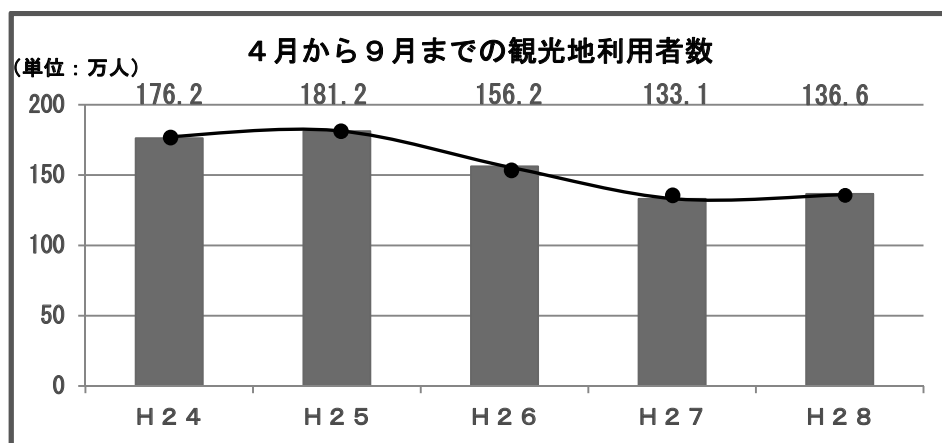


図-1 木曽郡の観光地利用者数の推移 (出典：長野県観光地利用者統計)

2 木曽谷支援の取組

中部森林管理局では、木曽谷の支援を実施するため、長野県木曽地域振興局、木曽地方の市町村、観光協会等と連携して、①「木曽川下流域の中京圏との交流イベント」、②「木曽谷の復興支援ツアー」、③木曽地域の観光協会等と連携した「木曽路トレッキングパズルラリー」などの開催に取り組んでいます。

これらの活動は長野県の木曽谷復興支援策である、「つながろう木曽 応援運動」の取組の一環として実施しています。



図-2 木曽谷支援の取組

①木曽川下流の中京圏との交流イベント

長野県木曽地域振興局、木曽地方の町村、広域連合主催の交流イベントの際や、中日親友隊、愛知県や岐阜県内の中高校生などの森林ボランティア活動に対して、フィールドの提供や職員を派遣して技術指導などを行っています。



写真-3 中日親友隊による災害
復旧地での森林整備



写真-4 愛知県の阿久比高校の
間伐体験

②木曽谷の復興支援ツアー

木曽地域の豊かな自然・文化を通じて、森林・林業、水資源についてより深く理解してもらうことを目的とした、木曽地域での1泊2日と日帰りのツアーを開催しています。

1泊2日のツアーは平成26年度から開催しており、国有林の木曽ヒノキ林や地元製材工場、元帝室林野局木曽支局庁舎の見学等を行い、27年度は御嶽山噴火による土石流対策工事箇所や、名古屋市の水源地である牧尾ダムの見学などを行いました。



写真-5 地元製材工場の見学



写真-6 元帝室林野局木曽支局庁舎の見学



写真-7 土石流対策工事箇所の見学



写真-8 名古屋市の水源地・牧尾ダムの見学

日帰りツアーとして、「木曽の国有林見学会」を平成27年度から開催しています。

江戸時代から深いつながりを持つ木曽川下流域の住民を対象に、木曽と名古屋の関係や森林・林業への理解、木材の輸送方法、運材技術の変遷などを見聞してもらう学習講座で、春と秋の2回、「森林浴発祥の地」であり「森林セラピー基地」にも認定されている赤沢自然休養林で実施しています。



写真-9 木曽の国有林見学会



写真-10 木曽の国有林見学会

③木曽地域の観光協会等と連携したパズルラリー

新たな取組の「木曽路トレッキングパズルラリー」を実施したところ、地域からも好評を頂きました。

パズルラリーは、木曽路の遊歩道を散策し、森林に親しみながら森林の大切さを理解してもらうとともに、多くの人に木曽路を訪れてもらうことを狙いに開催しました。

これは、木曽地域6町村に所在する12の散策コースにパズルを置き、それを集めると一つの絵が完成し、参加者は新たな観光名所の発見や苦勞して集めて完成させた、パズルの達成感を味わってもらうものです。



写真-11 トレッキングマップ



写真-12 チラシ（木曽路版）



写真-13 チラシ（赤沢版）

当センターが独自に創作した新たな取組であり、一般的な知名度がなく、遊び方を理解してもらうため、木曽路全域を回る「木曽路トレッキングコース」の普及版として、気軽に短時間で完成する「赤沢自然休養林トレッキングコース」も同時開催することとしました。

(1) 木曽路トレッキングコース

木曽路トレッキングコースのパズル絵柄には、木曽地域の歴史や文化を象徴するものとして、江戸時代に描かれた浮世絵の木曽街道六十九次の「馬籠」の絵を使い、パズルや貼り板には高級感を感じさせる地元産ヒノキ間伐材を使用し、パズルはヒノキ板に直接カラー印刷したものを6分割しました。



写真-14 木曽路トレッキングコースのパズル絵柄

これを散策路に設置した木製のパズル箱に置き、木曽地域の6町村を巡って6枚のピースを集め

ると浮世絵が完成し、応募すると卓上で飾ることができる台座を進呈することとしました。

さらに、12の散策路を全て制覇した先着100名の方へ、地元産ヒノキ間伐材の板にカラー印刷した木曾街道六十九次のミニ浮世絵を進呈することとし、参加者やリピーターの拡大を狙いました。

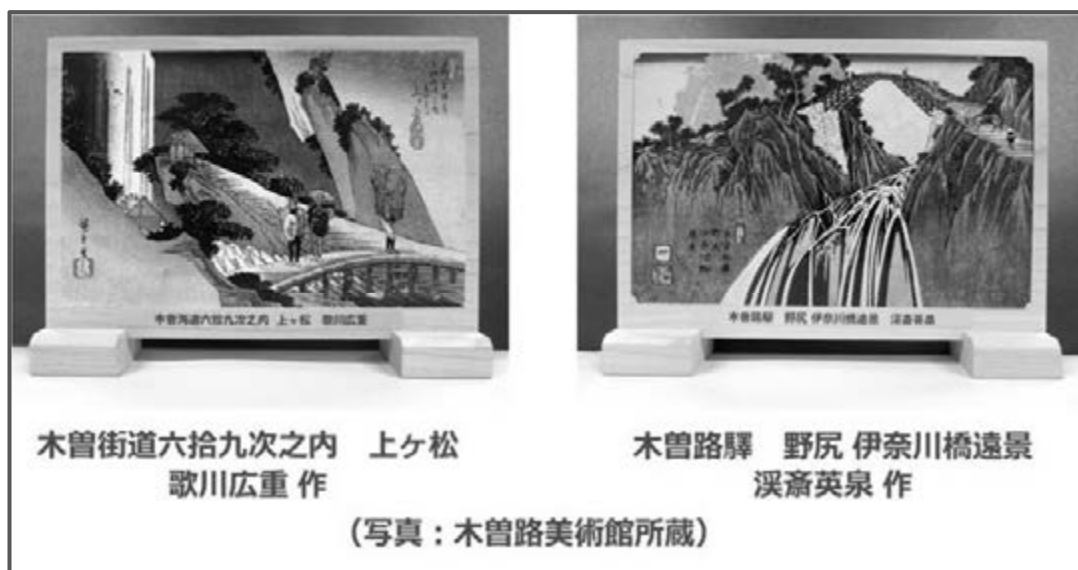


写真-15 全制覇記念の進呈ミニ浮世絵

(2) 赤沢自然休養林トレッキングコース

木曾路トレッキングコースを普及するために設定した「赤沢自然休養林トレッキングコース」の絵柄には、木曾地域の林業の歴史を感じさせる、中部森林管理局が所蔵している「木曾式伐木運材図会」を使用しました。



写真-16 木曾式伐木運材図会

これも、木曾路コース同様にカラー印刷したものを6分割して各コースに設置したパズル箱に入れておき、参加者が6枚集めて休養林内の「森林セラピー体験館」に持って行くと、パズルの貼り板と台座を進呈するもので、2時間程度で集めることができます。

(3) パズルラリーの実施状況

初めての試みでしたが、思った以上に好評を博し、開始して2ヶ月足らずの間に用意した数量が終了してしまいました。

好評により、赤沢では平成28年9月から第3弾、さらに29年4月からは第4弾のパズルラリーを実施しています。

開催当初は、貼り板や台座の引き替えを森林セラピー体験館やNPOの方をお願いしましたが、第2弾パズルラリーからは、この取組に好意的な休養林内の土産物店や飲食店でも交換していただくこととなり、第4弾まで継続して協力いただいています。



写真-17 個人での参加



写真-18 親子での参加

(4) PRの取組及びアンケート結果

このパズルラリーは、木曽谷支援の取組で、今後も継続的に実施するため、PR活動を実施するほか、木曽観光連盟や市町村等と連携を図ることとしており、木曽地域に多くの方が訪れてもらうために、参加者及び自治体や観光協会等へアンケートを行いました。



写真-19 ポスター及びのぼり旗の設置



写真-20 マップ及びチラシの設置

第1弾～第3弾のアンケート結果で、参加した人の居住地域別では、地元長野県や愛知県などの中部地方が78%を占め、年齢別では20歳台が5%と低く、60歳代が24%と全体の約4分の1を占めています。

参加者や協賛団体からの感想は、「よかった」、「継続してほしい」という内容が大半を占めました。

このような反響を受けて、平成29年11月より、中山道を散策しながら旧宿場に設置したパズルを集めていただく「中山道 木曽十一宿パズルラリー」を開始しました。

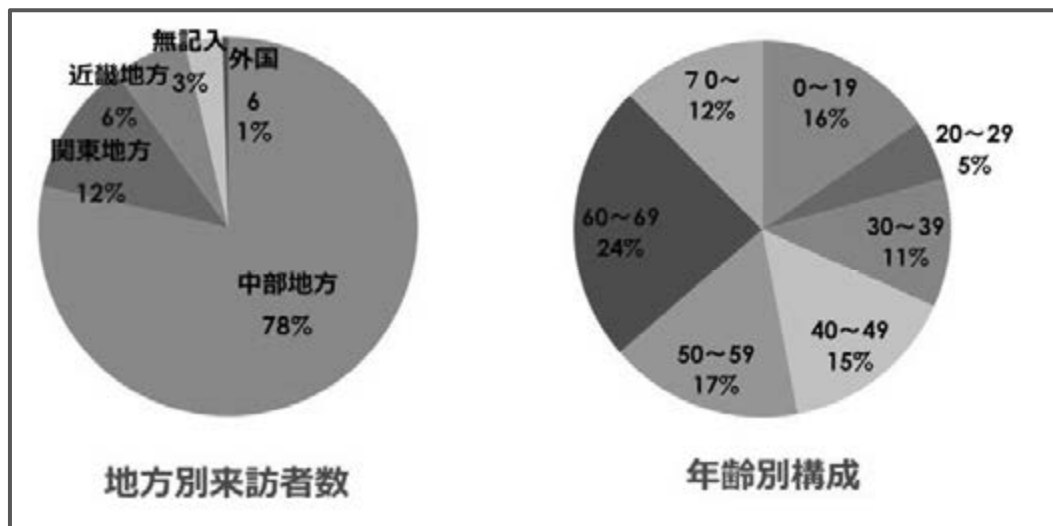


図-3 アンケート結果

参加者	協賛団体
・よかった、楽しかった	・参加者から好評であった
・継続してほしい	・この企画を継続してほしい
・また来たいと思った	・宿泊客から次回も来訪するとの声が届いた
・紅葉がとても美しく感動した	

図-4 主な感想等

3 考察

参加者へのアンケート結果によると、2回以上参加したリピーターの人もいて、「次回も参加したい」、「継続してほしい」との意見が多くありました。また、木曽地域の町村、木曽観光連盟等の協賛団体からも継続の強い要望が寄せられています。

木曽地域では、多くの木曽川下流域の中京圏の住民がボランティアによる植樹活動等の体験林業を実施するなど、以前から中京圏との地域間交流が続いています。

地域の林業・木材産業振興の視点から、パズルの貼り板裏面に「木曽の間伐材使用」と銘打ち、間伐材の利用促進の一助とすることとしました。

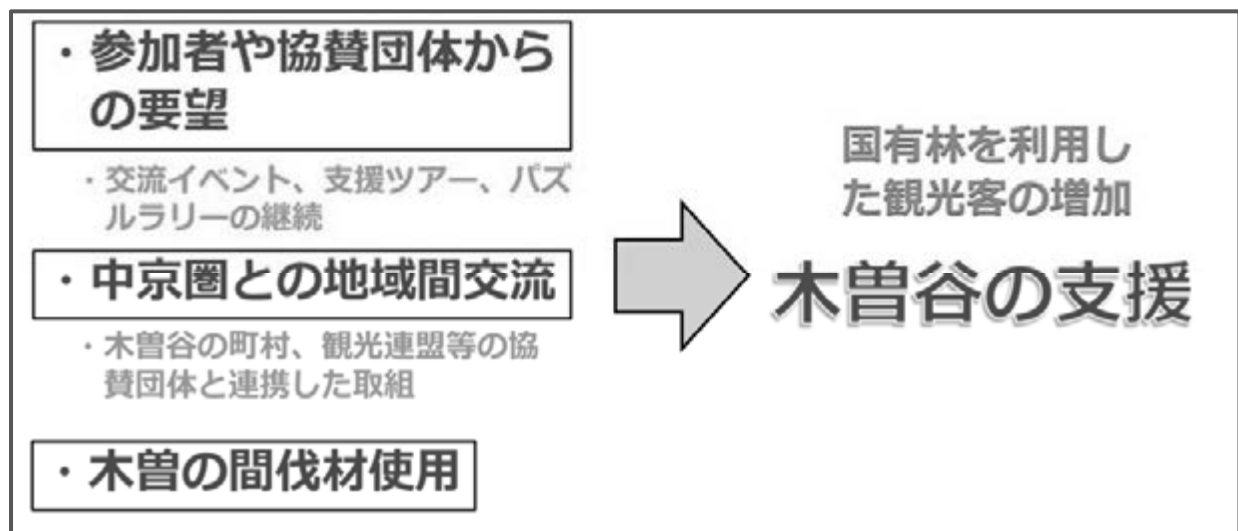


図-5 木曽谷支援の構図

おわりに

木曽地域に新たな来訪者を呼び込むためには、既存の観光施設と国有林との一体的利用により、観光客の増加を図るなどの効果的な企画を検討する必要があります。

当センターの取組が、木曽谷支援の一助となるように、引き続き地元市町村、観光協会や NPO 団体などと連携を図りながら実施して参ります。